九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[007]九州大学基幹教育院LAセンターインタビューシリーズ : みつばトーク

https://hdl.handle.net/2324/4402900

出版情報：みつばトーク. 7, pp.1-, 2020-11. Kyushu University Learning Analytics Center
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

九州大学 基幹教育院 LAセンター　インタビューシリーズ

発行/2020年11月

第 7 号

みつばトーク

2018年9月よりインタビューシリーズ「みつばトーク」を開始しました。
授業等でどのようにM2Bシステムを活用されているかについて、様々な方々にお話を伺っていきます。
M2Bシステムを使ったことがある方にもない方にも参考になるような情報をお届けしていきます。

グループ形式の授業やe-learningで Moodleを活用しています

サイバーセキュリティーセンター
金子 晃介　准教授

■ 自己紹介をお願いします

サイバーセキュリティの研究に従事しています。主にブロックチェーンに関する研究などをしています。それとは別に、九州大学のCSIRT（Computer incident response team）に入っているのでメインの業務で九州大学でインシデントが起こった時の対応であったり、学内の教職員やスタッフの方々にセキュリティ的なインシデントを起こさないようにする予防を考えたりしています。また、別の分野ですがレーザー加工機や３Dプリンターを使って、ものづくりをする授業も行っています。

■ 教育関係のことで、教育経験や抱負などについて簡単にご紹介ください

今講義を担当しているのはセキュリティの講義がメインで、基本的にはどの講義もセキュリティエンジニアリングと呼ばれるような、セキュリティを考慮して物作りができる人材をつくろうというコンセプトで担当しています。

――その講義は演習のような形式ですか？

はい。演習のような感じです。あまり座学はなく、基本的には手を動かしながら、興味やモチベーションを高めてもらって、自分で知りたくなったらもっと自ら調べていけると思うので、僕の講義は、ほぼ全てサイバーセキュリティ基礎論以外は全部演習系の講義ですね。必要最低限で必ず授業の枠の中で絶対手を動かしてもらうようにしています。

――人数規模はどの位ですか？

多くて20人くらいです。比較的少人数ですね。

――演習は個人でやるタイプとグループでやるタイプがあると思いますが、どのタイプですか？

グループです。どの授業も必ずグループでやらせるようにしていて、１つはグループでやらせることで教え合いが発生したりするのでそれの効果を狙っています。もう１つはやはり個人個人でやっているとどうしてもついていける学生とついていけない学生は出てくるので、そういう人が出ないようなマネジメントというか、そのような意味を込めてグループで授業を行っています。一人一人手を挙げると20人はとても対応できないので、まずはグループで話し合って、両方分からなかった場合やグループ全員が分からなかった場合は手を挙げて聞くという形で、授業は全部グループの形式でやっています。

――グループ形式での授業が多い中で、Moodleは活用されていますか？

Moodleは頻繁に使っています。例えば授業の資料を配布したりレポート提出に使っていますが、SSO-KIDを持っている学生でコース登録した学生だけが見れるという仕組みは良いと思います。ほかの利用としては，九州大学の全教職員を対象とした情報セキュリティ教育のe-learningですね。私は，九州大学のCSIRT（セキュリティインシデントレスポンスチーム）の業務として，標的型攻撃メールに対する訓練を行なったり，情報セキュリティ教育のためのe-learningのコースをMoodle上で公開したりしています。MoodleにPDFの資料やテストを作り公開して教職員の方々にe-learningを受けてもらっています。Moodleのシステムで、手軽にe-learningコースを作れるのはすごく良いと思っています。先生や教職員の方々は普段の業務でお忙しいので，e-learningを1時間とか30分まとめてやるのは結構時間が取れないというご意見もありましたので、昨年度から，いくつかの小さな章ごとに分けて，内容を受講できる仕組みを導入してみました。例えば、一章クリアすると二章が出てきて、二章をクリアすると三章がでてくる仕組みにして一章は多分5－10分で終わるんですが、そうすることで、途中でやめてもまた途中からやれる仕組みをMoodle上で作りました。こんなに細かく条件を設定できるんだと作りながら思いました。今年の7月から使い始めましたが、これは完了トラッキングという機能なのですね。

――Moodleでおすすめの使い方があれば教えてください

完了トラッキングがいいと思います。あれは講義ではまだ使っていませんが、前述のe-learningを作っている時にすごく良いと感じました。完了したら次へ進める条件と、そのテストで何点取れたら進めるという２つの条件を設定しました。普通の授業とは違って，e-learningでは，ファシリテーターがいないので、うまく誘導してあげるために次、次みたいな完了トラッキングの状況を見てコンテンツを出していくというのは良いですね。PDFの資料をまず見てからテストを実施するという作業を繰り返すようにして、PDF、テスト、PDF、テストと進みながら理解が深まるように作りました。このような仕組みを実現するために，完了トラッキングの機能を使って，資料を見たかどうかをチェックした後にテストが出てくるようにしています。授業ではできるだけライブ性のあるその時にしかできないようなインタラクティブな講義を目指していますが、完了トラッキングの機能はどちらかというとファシリテーションの自動化とも言えるため、例えば事前学習の予習用のe-learningみたいなものを作りたいとき等に向いていると思います。

■ M2B、Moodleを使ったことがない先生にメッセージをお願いします

授業の準備や後のレポートとかで時間がとられてしまい、なんとかこの時間を短縮したり効率的にやりたいと言う方にM2Bシステムはおすすめです。自分の授業改善や授業の効率改善、効率的な時間の使い方をやるためにM2Bを使うのと、自分自身の授業改善のためにM2Bを使うという２つの軸で使えると思います。

〔聞き手：木實新一（基幹教育院教授　・ LAセンター長）〕

*このインタビューは2020年に行われました。

※Moodle機能の詳細については M2B学習支援システムの教師用マニュアルをご覧ください
（https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/pluginfile.php/232271/mod_resource/content/19/manual.html）

九州大学 基幹教育院
ラーニングアナリティクスセンター
Web: http://lac.kyushu-u.ac.jp/index.html
Mail: m2b-office@artsci.kyushu-u.ac.jp
TEL: 092-802-6077